

# 小城市の子どもたちの学習基盤となる生活の状況と 学力の状況（国語、算数・数学、英語）

～ 調査結果分析と今後の方針 ～

## ◆平成31年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査

### ■ 平成31年度全国学力・学習状況調査

#### 1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

#### 2. 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

#### 3. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

#### 4. 調査内容

##### （1）教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

##### （2）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・学習の基盤となる学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## ■ 平成31年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕

### 1. 調査の目的

- ・子どもたちが学習する教科等のうち、国語と算数・数学について、学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- ・各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図ります。

### 2. 調査対象

小学校第5学年、中学校第1学年、中学校第2学年

### 3. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

### 4. 調査内容

#### （1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

#### （2）学習や生活習慣等に関する児童生徒意識調査

- ・学習の基盤となる学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## ■ 小城市全体の概要・考察

### I 児童生徒質問紙調査・意識調査〔学習の基盤となる子どもたちの生活習慣・状況〕

- ・小中学生ともに地域の行事に積極的に参加をしており、地域・社会の問題や出来事への関心も高いという結果が出ました。
- ・難しいことにも失敗を恐れずに挑戦する意欲、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う規範意識、人が困っている時は進んで助ける態度が、小中学生ともに全国と比べて高いということが分かりました。
- ・学校の規則を守ることについては、小学生は県や全国と比べて守れている割合が高いが、中学生は県や全国と比べて守れていないという結果がでました。
- ・自分の良さを理解している中学生が県や全国と比べて低いということが分かりました。
- ・家庭学習については、小6、中3が県や全国平均よりも大きく下回っていました。学校の宿題をしている割合も県平均より下回っているため、宿題の量・質に課題があります。
- ・テレビゲームを長時間使用している子どもは、学年が進むごとに増え、県平均を上回っています。テレビ、DVD等の視聴時間についても、同様の傾向が見られました。
- ・携帯電話やスマートフォンを長時間利用している子どもの割合は学年が進むごとに増えており、携帯・スマホの所持率が年々増加していることや使い方のルールについても守れていないことから、早急に対策を講じる必要があります。



## 《 改善のポイント 》

・保護者や地域の方々には、日頃から熱心に学校教育活動へのご協力・ご支援をいただいています。そのことが、児童生徒の地域への関心の高まりにつながっていると思われま

す。今後とも家庭・地域と学校が連携を密にして、知徳体のバランスの取れた児童生徒の育成をめざしていきます。調査の結果を保護者にお知らせし、家庭での過ごし方、家庭学習の充実について、ともに考えていく姿勢が大切だと考えます。ご理解とご協力をお願いいたします。

## Ⅱ 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

・県調査では、中学校1年生国語が県平均をやや下回っていましたが、小学校5年生、中学校2年生は国語、算数・数学とも県平均とほぼ同じでした。

・全国調査では、小学校6年生は国語、算数ともに全国平均とほぼ同じでしたが、中学校3年生は国語、数学、英語とも全国平均を下回っていました。中でも、国語、英語については、全国平均と比べて大きく下回るという結果でした。

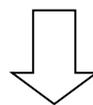
・全国調査では、小学校6年生・中学校3年生ともに「知識」に関する問題よりも「活用」に関する問題の正答率が低くなっています。これは全国的にも同様の課題が指摘されているところで、基礎・基本を活かして、生活場面での様々な課題に活用する力を伸ばすことが求められます。

・観点別に見ると、国語の「言語についての知識・理解・技能」が小学6年生、中学校全学年で落ち込んでいて課題が見られました。また算数・数学の「数学的な見方・考え方」が中学1年生、3年生で県平均、全国平均より大きく落ち込んでいました。

・英語では「言語や文化についての知識・理解」が全国平均より大きく下回り課題がみられました。

・全国調査において、対全国比で昨年度と比較をすると、算数・数学で伸びがみられました。

・今回の結果を踏まえ、さらにきめ細やかで丁寧な指導を行い、小学校では活用する力を中学校では習得する力を育成する必要があります。



## 《 改善のポイント 》

・基礎・基本の定着を図るため、評価を随時取り入れ、児童生徒一人一人のつまづきを的確に把握することが求められます。その課題に応じた個別の補充学習を継続していくことや、チームティーチング・少人数指導のさらなる充実を図るなど、よりきめ細かな指導を強化する必要があります。

- ・思考力・判断力・表現力を高めるためには、課題解決をしていく中で、「考える場面」を積み重ねていくことが大切です。また、個人で問題を解くだけでなく、授業の中で学び合う活動を仕組むことがポイントだと考えます。ペアや小集団、学級全体で、理由や根拠を明らかにして自分の考えを説明すること、意見を交流しながら考えを練り上げていくこと等を通して、筋道立てて表現する力や有効性を判断する力などが身につきます。
- ・活用力をつけるには、授業で習ったことを生活場面へ応用してみる、逆に、発展的な学習として生活場面から問題を探し解決してみるといった学習を、意図的計画的に取り入れていく必要があります。
- ・日頃から自分の考えを持ち、書く習慣付けを図ることが大切です。

### Ⅲ 小城市教育委員会として

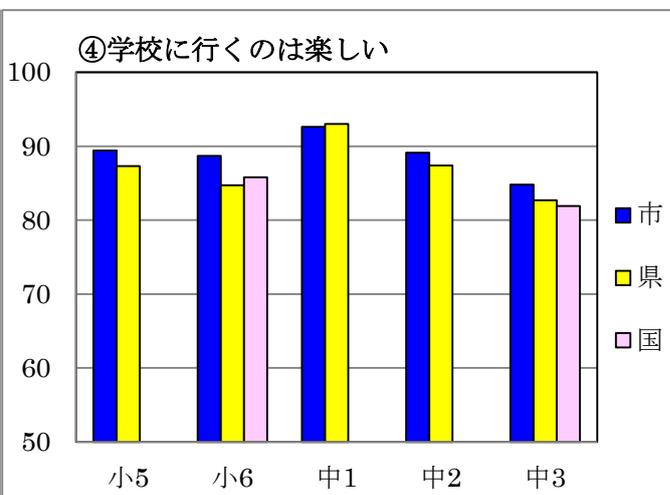
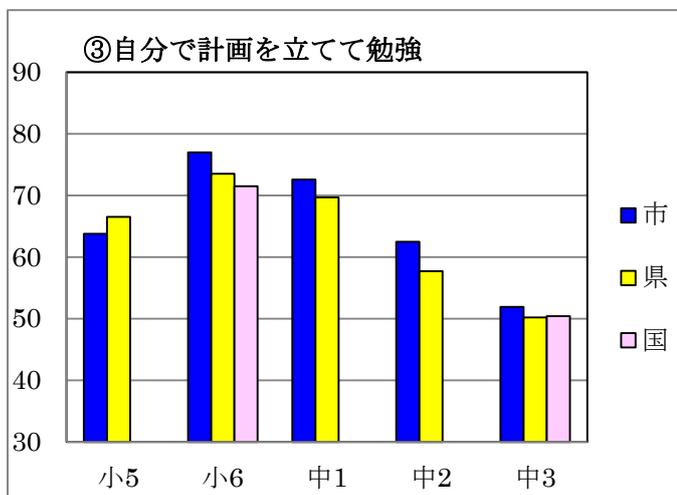
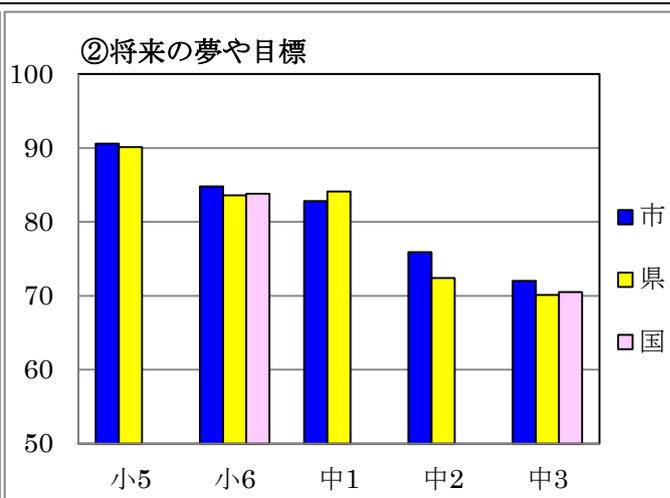
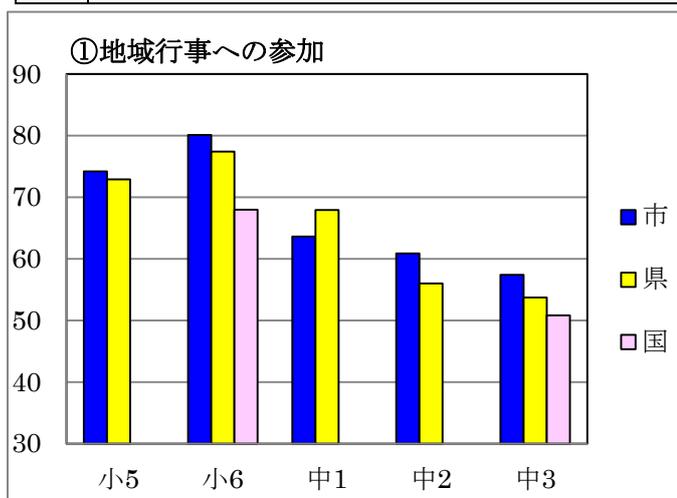
- ・各学校においては、今回の調査結果を分析して成果や課題を明らかにし、具体的な方策を打ち出すこと、全職員で課題を共通認識し、組織的に取り組むことを確認しています。  
(市内すべての小中学校が、分析結果と方策をホームページ上に公開しています。)
- ・全小中学校への学校訪問を行い、東部教育事務所の支援を受けながら、校内研究の充実や組織的な学力向上の取組についての協議、指導助言を行い、各学校の取組の推進を支援します。
- ・指導方法の改善を図るため、11月22日(金)に小城市教育研究大会(小学校2校【晴田小学校、芦刈小学校】、中学校1校【芦刈中学校】の授業公開・研究会)を開催します。小城市全教職員が共に学び合うことで、指導力の向上に努めます。
- ・小城市学力向上研究会(小城市校長会委嘱)の専門部としてICT利活用授業研究部会を設置し、学力向上のツールとしてのICT利活用について、実践的研究を推進します。
- ・小城市学力向上コーディネーター等研修会で小城市の課題に沿った研修(思考力・表現力をつける指導方法改善・家庭学習の充実)を実施します。
- ・9年間でいかに個々の学力を伸ばすかといった視点に立ち、小中の連携した取組を進めます。
- ・すべての児童生徒がよく分かる授業づくりや個別支援の充実を図ることが学力向上に欠かせないことから、特別支援教育についての実践・研究を進めます。

※個々の学校の結果については、各学校から公開される結果分析をご覧ください。

〔 資料 I 〕 ◆生活習慣等に関する「意識（質問紙）調査」から

【 小城市の小・中学生のいいところ 】

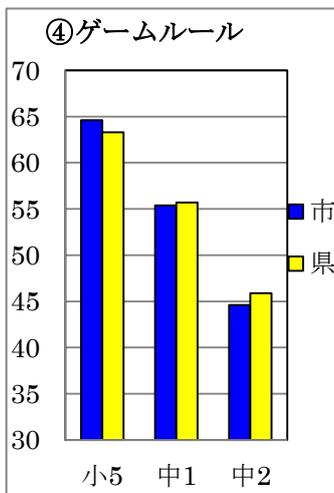
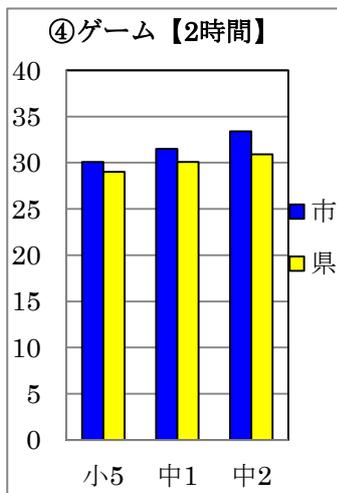
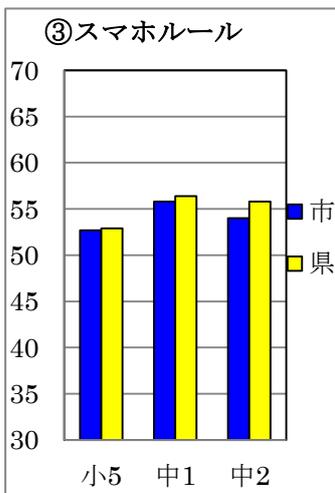
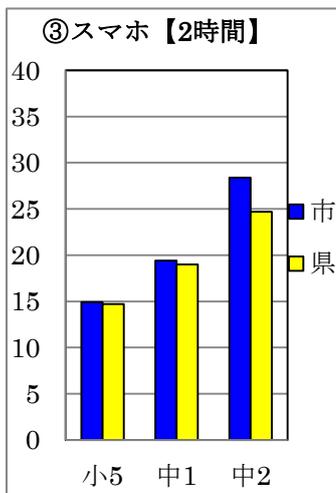
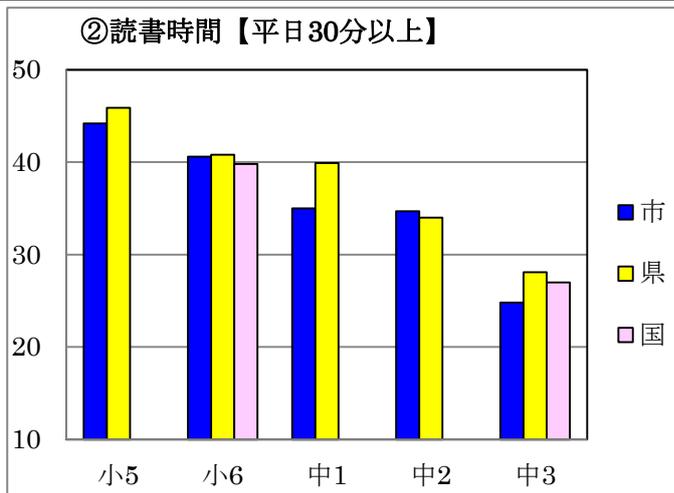
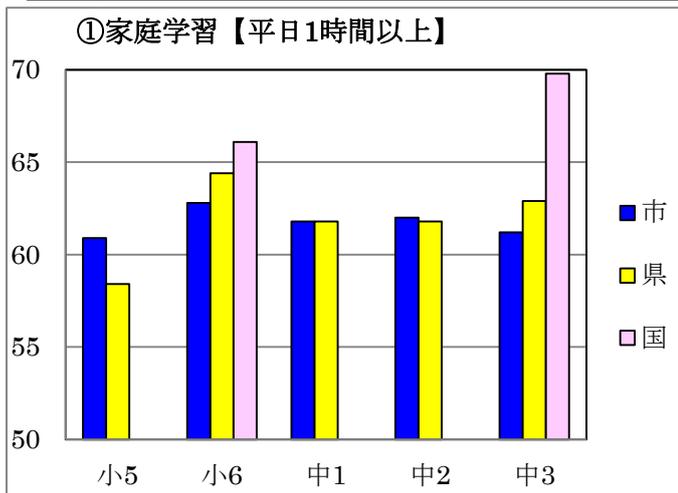
調 査 の 項 目	
①	地域行事への参加 ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
②	将来の夢や目標 ※持っている・どちらかといえば持っていると答えた児童生徒の割合
③	自分で計画を立てて勉強 ※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
④	学校に行くのは楽しい ※そう思う・どちらかといえばそう思うと答えた児童生徒の割合



- ・小中学生ともに地域の行事に積極的に参加をしており、地域や社会をよくするために何をすべきか考えているという結果が出ました。
- ・将来の夢や目標を持っている児童生徒が多く、人の役に立つ人間になりたいと思っている割合も高く、キャリア教育や道徳教育の効果がうかがえました。
- ・家庭教育指針や家庭学習の手引き等で提示されている具体的な学習の進め方が理解され、子どもたちの自主学習への取り組みが高まっていることがうかがえました。
- ・学校に行くのが楽しい、学校では落ち着いて勉強することができていると回答している児童生徒が多く、授業改善の取り組みの成果がうかがえました。

【 小城市の小・中学生の気になるところ 】

調 査 の 項 目	
①	家庭学習 ※平日1時間以上学習していると答えた児童生徒の割合
②	読書時間 ※平日30分以上読書していると答えた児童生徒の割合
③	スマホ ※平日2時間以上使用・ルールを守っている児童生徒の割合
④	ゲーム ※平日2時間以上使用・ルールを決めている児童生徒の割合



・家庭学習については、2学年で県平均を下回るという結果でした。特に小6、中3は県平均及び全国平均を大きく下回っていました。

・平日読書を30分以上している児童生徒は4学年で県平均を下回っています。また、平日全く読書をしていない子どもは、学年が進むごとに増えており、中学生では県平均を大きく上回っています。

・スマートフォンについては、平日2時間以上使用している子どもが、学年が進むごとに増えており、中2は県平均を大きく上回っています。また、県平均と比べてルールが守れていません。

・ゲームについても、平日2時間以上使用している子どもが、学年が進むごとに増えており3学年とも県平均を上回っています。また、学年が進むごとにルールが決められていません。

・テレビゲーム・スマートフォンの利用時間と教科テストの正答率のクロス集計を見ると、全学年で、利用時間が長くなるにつれ正答率が低くなっています。